

生産性向上支援訓練のご案内

生産性向上支援訓練とは、企業が生産性を向上させるために必要な知識などを習得する職業訓練です。全国のポリテクセンター等に設置した生産性向上人材育成支援センターが、専門的知見を有する民間機関等と連携して、企業が抱える課題や人材育成ニーズに対応した訓練を実施します。

生産性向上支援訓練 3つのポイント

1 企業の生産性向上に効果的な知識や技法を習得！

- ・生産管理、組織マネジメント、マーケティング、データ活用など、あらゆる産業分野の生産性向上に効果的なカリキュラムを用意（全125コース('22.1月現在)）

2 企業のニーズに合わせたオーダーメイドのコース設定が可能！

- ・自社会議室等を訓練会場とすることが可能（企業に講師を派遣します）
 - ・実施日時や訓練時間も調整可能（訓練時間は4～30時間で設定）
- ※従業員1人からでも利用できるオープンコースも実施しています



3 受講しやすい料金設定！

- ・受講料は1人あたり2,200円～6,600円（税込）
- ・条件を満たす場合は国の助成金（人材開発支援助成金）を利用可能

全国実績

（累計）

受講者数 **135,093**人

※'17～'21.11月末まで

利用した企業数 **44,393**社

※'17～'21.11月末まで

受講者評価

98.2 %

（業務への役立ち度）

※'17～'21.9月末まで

訓練受講までの流れ

課題や方策の整理

- ・センター担当者が企業を訪問し、人材育成に関する課題や方策を整理します。

訓練コースの
コーディネート

- ・相談内容を踏まえて、課題やニーズに応じた訓練コースを提案します。

- ・現場の課題を発見し、改善する方法を学びたい。
- ・RPAを活用して業務を自動化したい。
- ・テレワークを導入して業務を効率化したい。

分野
・
コース

生産管理、流通・物流、バックオフィス など

- ・生産現場の問題解決
- ・RPA活用
- ・テレワークを活用した業務効率化 など

- ・従業員の仕事の効率化を促進したい。
- ・リスクを低減させる方法を学びたい。
- ・ベテラン従業員の技術を後輩に継承させたい。

分野
・
コース

リスクマネジメント、組織力強化、生涯キャリア形成 など

- ・成果を上げる業務改善
- ・リスクマネジメントによる損失防止対策
- ・作業手順の作成によるノウハウの継承 など

- ・顧客満足度の向上を図りたい。
- ・消費者の動向を営業に活用したい。
- ・インターネットを活用して販売促進を図りたい。

分野
・
コース

営業・販売、マーケティング、プロモーション など

- ・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- ・提案型営業手法
- ・提案型営業実践 など

- ・データ集計の作業を効率化したい。
- ・マクロを使って定型業務を自動化したい。
- ・集客につながるHPを作成したい。

分野
・
コース

ネットワーク、データ活用、情報発信 など

- ・表計算ソフトのマクロによる定型業務の自動化
- ・集客につながるホームページ作成 など

訓練受講

- ・所定の期日までに受講料の支払い等の手続きを行い、訓練を受講してください。

※相談内容によっては、少人数からでも受講できるオープンコースのご利用を提案する場合があります。



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

Japan Organization for Employment of the Elderly, Persons with Disabilities and Job Seekers

～生産性向上人材育成支援センター(生産性センター)は、事業主の皆様が生産性向上に向けた人材育成を支援しています～

(生産性センター紹介ページへ)



生産性向上支援訓練を利用させていただきました！

石川メッキ工業株式会社 さま

所在地 : 金沢市
業種 : 表面処理製造業
利用コース : ①品質管理基本
②品質管理実践
実施時期 : ①令和3年7月(計4回)
②令和3年9月(計4回)
利用時間数 : 各合計11時間
実施機関 : 有限会社ステップアップ
(川合 智隼 先生)



＜事業主様の声＞
専務取締役
鴻野 健太郎 様

※記載の組織情報等は令和3年度時点のものです。

現在、当社では経営者や従業員、技術者や営業全てが連携し、全員で生産性向上または課題解決に取り組む、お互いが協力して深く考えるといったことを意識的に行っています。

今般の、新型コロナウイルス関連で、客先の見方がより厳しくなり、品質管理の考え方が非常に重要となってきております。

そのため、品質管理における「検査」について、自工程検査が基本であること（理想は検査不要）を理解し、それぞれが工程に責任を持ち、自分達で解決していく意識を持ち、良いモノづくりができる製造技術者となってほしいと感じ、訓練を受講しました。

受講者の多くは「品質管理」という言葉を難しいと感じていたようですが、普段の製造業務の中で、何気なく行っていることに当てはまり、訓練内容を身近に感じることができるようになりました。

また、普段から変化点に気を付けるようになったことや、自ら生産している製品の品質に疑問を持つことができるようになりました。

今後は、引き続き現場技術者が品質管理を実施できる体制を構築するために活用していきたいと考えております。

また、より良いモノづくりができるように、訓練内容が当社の社風となるためにこれから伝承していきたいと思っております。